



JEG ニュースレター 157号

www.jegschweiz.com

2016年9月17日発行

小さな証
今回の”キリスト者の集い”のもう一本の柱、朝のデボーションを企画した実行副委員長の証、、、 P2

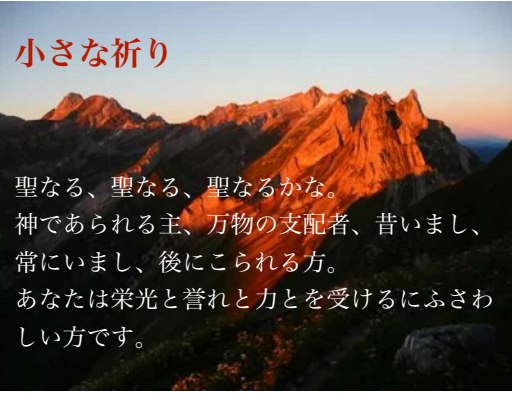
新シリーズ
”み国を待ち望む”に続く新しいシリーズは”頭なる主の教会宛の手紙”いよいよ期待の黙示録からの講解メッセージ p3

“また会う日まで” 第33回集い”証”集
フランクフルト日本語福音キリスト教会のお優しかったホフマン昌江姉は、6月13日、召されました。姉を慕う兄弟の言葉の献花、、 P4

集いの余韻の熱い内に多くの参加者から証と感想文をお送りいただきました。それらを編纂したものを添付でお届けします。

小さな祈り

聖なる、聖なる、聖なるかな。
神であられる主、万物の支配者、昔いまし、常にいまし、後にこられる方。
あなたは栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。



これらのことが起こり始めたなら、からだをまっすぐにし、頭を上を上げなさい。
贖いが近づいたのです。そのように、これらのことが起こるのを見たら、神の国は近いと知りなさい。
ルカ21：28、31

南ドイツ・シュヴァルツヴァルト・ザーベルシュタインで7月27日から31日まで開催されたスイスJEG主催”第33回 ヨーロッパ・キリスト者の集い”は、圧倒的な祝福のなか終了し、栄光を神様に帰することができました。



ちいさな証

朝のデボーションの企画を担当して

原憲二

スイス日本語福音キリスト教会



主催者の一員として、スイス教会の兄弟姉妹と、さらにはヨーロッパを中心とした各国の教会、集会の兄弟姉妹と共に主のために心合わせて奉仕できましたことは最高の喜びでした。

私は本大会のいろいろな企画、しおり作成を担当する中で、特に「朝のデボーション」の企画についての思い入れを、振り返って皆様にお分かちしたいと思います。

本大会では中川先生をはじめ、講演して下さった各先生方を通して、神様は計り知れない壮大なご計画をもって、私たち人類を恵みの中にいれてくださっていることを学びました。それは私にとっても、どこから来て、どこへ行くのか、今どこに立っているのかを確認することができただけでなく、これまでの私の狭い福音解釈のスケールを、将来にわたって大きく広げてくれるものでした。

特に、「御国を待ち望む」とは、私たちが愛してくださっているイエス様に会うことこそ最高の喜びであり、目的であるということ。また、イエス様の最初の到来と復活とともに、御国は部分的に私たちの只中に始まっているということ。そして、私たちはこの世において「御国を来たらせたまえ」と祈りながら、イエス様と共に御国建設の働き人に加えられているということが心に残りました。



私たちが現在立っている、御国を待ち望む歩みは、イエス様が共にいてくださいますから力強い反面、戦いが伴います。マイヤー先生は、はっきり迫害とわかる攻撃よりも、平和そうに見える私たちの日常にある、「まどわし」のほうが危険といわれました。確かにそうだと思います。私たちは膨大な情報の嵐

のなかに毎日さらされています。朝起床と同時にスマートフォンは私を神様から目をそらそうとします。神様から引き離そうとするサタンに立ち向かって、私たちはどうしたら良いのか。この点について先生方が強調されていたことは「みことば」を通してしっかり（感情によらず）神様に繋がるということでした。

私たち主催者として、この神様に繋がるための実践として企画したのが朝のデボーションでした。危機と言われるこの時代にあつてますます信徒一人ひとりが個人的に神様と密接に繋がる必要性を感じたからです。担当者としては、「朝のデボーション」は自由参加としたものの、講演プログラムと並行して両輪をなす重要なプログラムとして位置付けました。



折にかなってデボーション冊子「みことばの光」を編集されている矢吹博先生を私たちの教会に招いて、事前にデボーションセミナーをしていただき、準備することもできました。聖書同盟が勧めるデボーションの手順（「みことばの光」の巻末に記されています。しおりにもあえて紙面をさきました）は、信仰の先達が編み出したすばらしいものと体験を通して感心しています。私たちは時に、みことばを読んでいるつもりでも、自分勝手な考えへと脱線しがちです。この手順に素直に従って文脈を解釈するとき、隠されていた宝が輝きはじめるように神様のメッセージが個人に迫ってくるのです。そこには神様と個人的に対話する喜び、聖霊の慰めと湧き上がる力を実感できます。

朝一番に何をするか、考えてみればこの朝一番の行動が、その日の行動や心構えを左右します。情報の渦の中に飛び込む前によほどの備えがないかぎり、私たちは簡単にその渦に飲み込まれてしまいます。惑わされずに、時代のしるしを見きわめる力は、個人と神様との絆の太さによるのではないのでしょうか。この集いを機会に、これからデボーションをはじめられる方が増えて、ますますその恵みにあずかる兄弟姉妹が起こされるように願っています。





1、4月に始まったマイヤー・マルチン牧師による”み国を待ち望む”シリーズは、夏のヨーロッパ・キリスト者の集いのために教会員を霊的にも整えることを目的にしたものですが、集いの最終日の日曜礼拝における説教”み国の実現”黙示録19章11-16に於いて終了いたしました。

た。

9月11日から新シリーズ「頭なる主の教会宛の手紙」が始まりました。8回の講解メッセージが予定されているこのシリーズは、黙示録から解き明かされる予定です。聖書の最後を締めくくる”黙示録”はその重要性にもかかわらず、難解さと様々な異なった解釈のゆえ、今日の教会で解き明かされることは稀です。私たちはパウロ、ペテロ、ヤコブの手紙は熱心に学ぼうとしても、イエス様がヨハネに命じて書いた手紙である黙示録を故意に避けて通ってきたと言えます。



その黙示録は教会の将来と、これから世界情勢がいかに展開するか預言し、神様の人類救済計画の全貌を知る上でも欠かせないものです。この難しいとされる黙示録を、マイヤー牧師はいかに理解できるように解き明かして下さるか大いに期待しています。

新シリーズにも深く関わる”み国を待ち望む”シリーズは、スイス JEGのHP www.jegschweiz.com/礼拝メッセージ-audio-video/ サイトでビデオにてご覧いただけます。また、キリスト者での集いにおけるメッセージは www.europetsudoi.net/33回集い特別サイト/メッセージ-アウトライン/ で録音ファイルをダウンロードしてお聴きいただけます。また、アウトラインやパワーポイントファイルもご参考にしてください。

2、マイヤー牧師は、8月11日から23日まで、8年間(1991-1998)キャンプディレクターとして働かれた東京都・奥多摩福音の家で、夏期ファミリーキャンプにおいて5回の講義のご奉仕をされ、また、元スイスJEG牧師・田辺正隆牧師ご夫妻が牧会される奥多摩福音キリスト教会の日曜礼拝で説教されました。台風や大雨、記録的な暑さに遭遇されながらも、とても懐かしく、邂逅され、全ての出来事を心ゆくまで楽しめました。

3、マイヤー牧師が奥多摩でのご奉仕中の8月14日、スイスJEGは、[シュトゥットガルト日本語キリスト教会](http://www.jegschweiz.com/礼拝メッセージ-audio-video/) 浅野康牧師をお迎えして礼拝を守りました。浅野康牧師は「私は弱い時こそ、強い」をテーマに、第2コリント12:1-10から解き明かされました。世間の価値観では、弱きことは、特に男には恥ずべきこと。しかし、浅野牧師の弱さを誇ろうという呼びかけに頷かれました。この説教の録画は、スイスJEGのHPでご覧いただけるほか、ドイツ語訳をダウンロードしてお読みいただけます。www.jegschweiz.com/礼拝メッセージ-audio-video/



また、翌日15日には、チューリッヒ近郊のヘス明美姉宅で持たれた家庭集会(13名参加)においてもご奉仕いただきました。

4、スイスJEGが10年ぶりに主催する”第33回 ヨーロッパ・キリスト者の集い”をテーマに、南独シュヴァルツヴァルト・ザーベルシュタインで、7月27日から7月31日まで開催されました。欧州を中心に、アジア、アフリカ、日本から286名の邦人クリスチャンとその家族、邦人宣教に重荷を持つヨーロッパ人・クリスチャンが集まり、聖書の学びと神の家族の交わりとリトリートに貴重な時と体験を共有し、豊かに祝福されました。



今回は、プレ大会ならびに本大会の特別講演にハーベスト・タイム・ミニストリーズ代表・中川健一牧師、ならびにユースのためのセッションにKGK総主事大嶋重徳牧師、そして、日本語を母国語としない参加者(多くはヨーロッパ人の伴侶)のための英語セッションに日本聖書学院院長・岡田大輔牧師を招き、豊かな恵みに満ちた”集い”となりました。

今回の”キリスト者の集い”の全講演の録音ならびにビデオや写真等の全記録は、スイスJEGが管理する”ヨーロッパ・キリスト者の集い”オフィシャル・ホームページ”[33回集い特別サイト](http://www.jegschweiz.com/33回集い特別サイト/)にてご利用いただけます。

5、伝道やプレゼントに最適な美しい写真カレンダー2017年の注文を受け付け中です。内容や注文方法などのインフォはHPにてご覧ください。<http://e.jimdo.com/app/s6b4a940f6d6016f5/pcb795e391e32be67?safemode=0&cmsEdit=1>

6、オーニング宣教師、クンツ・プリスキラ宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師、ローゼンクランツNL、フーサー香織・シモン宣教師からのRundbrief、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、パリ・プロテスタント日本語キリスト教会パルタージュ、イザール通信、夜越山からの便り、ミッション”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。



夏の誕生会と愛餐会、そして日本からのお客さま

難しい手術であるけど、すべてを主の手に委ねるわ、とのホフマン姉の言葉が忘れられません。前回美味しく頂いたイチゴケーキが最後になってしまったのかと、とても悲しい気持ちでいっぱいです。

主にあって10年以上もお交わりできたこと、そこで彼女の信仰にいつも励まされたこと、感謝です。また姉が今主の御許にあるということが、本当に慰めになっています。

信じられない思いと共にショックが大きく、まだまだ一緒にいたかった思いが大きいです。でも神様のもとへ行かれた事を慰めになりたいと思います。ご家族はさらなる悲しみの中におられる事と思いますが、神様のお慰めがありますようにお祈りします。



2015年秋の修養会にて Haus Bethel

今朝のブログでどなたのこと？と思っておりましたら、このような悲しいお知らせ。言葉ありません。今はホフマン昌江姉が神様の御許にいらっしゃるということを知って、心からお祈り、心を鎮めたいと思います。

つい先日教会で元気なホフマンさんとお話したばかりだったのに、こんなことがあるのかと、驚きと寂しさを感じています。今は神様のもとで安らかにされていますと知っていることは慰めです。ご家族の方の上に慰めとお守りをお祈りしています。

優しくったキュリー夫人



愛するホフマン昌江姉
また会う日まで、

ホフマン姉のこと、私たちにもご連絡くださり、ありがとうございます。

今日のみことばを朝一番に読んで、この箇所を今日読ませてもらって良かったと思いました。また、お知らせのメールの最後には、みことばを添えてくださり、ありがとうございます。

ホフマンさんとは、ご飯にお招きいただいたこと、育てたキュウリの苗を分けてくださったこと、手作りのジャムや野菜を持たせてくださったことなど、いろいろな思い出があります。私も寂しいですが、素敵な出会いをくださり、感謝です。 A.M.

スイスから

ホフマン昌江さんの召天。先日のスイス日本語福音キリスト教会礼拝日の次の日だったのですね。いつも修養会で彼女にお会いするのがたのしみでした。今は天国でイエス様と一緒にられるのですね。でも、やっぱりショックです。ご家族の上に主の慰めがありますように！ S.H.

昌江さんのことをご連絡くださり、ありがとうございます。毎年のフランクフルト日本語福音キリスト教会の修養会

では彼女にお会いしていました。よくお話を二人でしていました。ほんとうに残念です。寂しくなりました。天国で再会できる日まで、もう少しこの世で精一杯生きてみようと思っています。

ホフマン昌江姉の訃報に接し言葉無しです。でも次は私の番かなと思ひ、もっともっと神様に従順にならなくてはと心を正す思ひです。今年の集いには中村兄姉の都合で欠席になられたけれど神様にはもう分かっていたことだったのですね。昔からの日本のことわざ通り一期一会毎回お会いする時を大事にしなくては彼女の訃報に接して思い返しました。S.K.



2003年スイス・フランクフルト合同修養会にて
前列左端、クッツ元宣教師の左。

スイス、仏語圏から

ホフマン昌江姉の御霊が安らかでありますように、ご家族と、地上で主に在るお交わりのあられた兄弟姉妹の皆さまの上に神様のお慰めが豊かにありますようにお祈りします。

ノルウェイから

ホフマン昌江姉の訃報、ありがとうございます！！本当に驚きですね。手術中に亡くなったというのも悲しいことですね。

ご遺族に神様の慰めがありますように覚えてお祈りいたします。キリスト者の集いでしかお会いできませんでしたが、ここ数年お見受けしていなかったような気がいたします。又以前からのお仲間が減っていくのが寂しい限りです。

ホフマン姉の一番の願い 渡邊富士男 (ギーセン教会)

ホフマン姉妹が亡くなられた知らせを受け、とても寂しくなりました。20年前にドイツの生徒から日本人のクリスチャンが教会に集っておられる事を聞きました。その後私たちの家族を招待して下さったり、日本人の家庭集会を紹介して下さったのもホフマン姉妹です。母親一人で2人の娘さんを苦勞しながら、育て上げた方でした。

とても残念です。ユーモアを持ちながらも率直な意見を持ち日本人教会の為に、主の福音の為に祈って勞されました。以前イスラエルを旅行され、マサダで見た日の出を私に油絵で依頼された絵があります。紀元70年の出来事で、意図して赤く流された血を思いながら地塗りをし、主にある希望を託した風景画です。

私は、ホフマン姉妹が今、主の下におられる事を確信しています。ご家族の上に主の慰めと、信仰への導きがある事を願うものです。それがホフマン姉妹の一番の願いでもありました。



ホフマン姉のお宅のリビングに掛かる渡邊富士男兄の絵